

2013年(H25年)

6月

No. 265

ひとはつうしん

(ホームページアドレス) <http://www2.ocn.ne.jp/~hitoha/>
(メールアドレス) hitoha@lime.ocn.ne.jp



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

- 心地よい季節もつかの間。夏を思わせる晴天の後、例年より早く梅雨入り宣言されました。季節の変化に体をあわせるのもたいへんです。皆さんいかがお過ごしですか。
- 私事ですが、4月から就労センターあぶに赴任しました。高駅通りを歩くと、ご近所の方々とあいさつが交わせます。窓を開けると「ガタンゴトン」と電車が通る音が響き渡ります。あぶが所在するニ下小原は、近くに保育所、小学校、老人施設、地域のコミュニティー会館が集まっている素敵なところ。まずは、中断していた駅舎(芸備線の吉田口駅)の掃除を再開しました。コミュニティー会館「あぶ」の清掃もやらせてもらっています。6月2日には、恒例の「大土山花田植え」が開催され、あぶも参加します。
- これから、地域とのつながりをつくっていくことがとても楽しみです。
- 先日、「大土山花田植え」の打合せの会合に参加させていただきまして、その時、こんな会話が交わされました。「会場の入り口が砂利で、車いすが通りにくいから、どうにかしたいよね。」「そうじゃのお。コンパネ敷こう。」「お年寄りも花田植えを見てのに暑いよね。」「テントをたてよう。」こんな会話をききながら、いまだ解決されていない「菓子博の電動車いす」の問題を思い出しました。開催者の方々が、参加する一人一人のことを想像して考えることができれば、きっとこんな問題は起こらなかつたように……
- ひとはは「誰でもが共に暮らせる社会」の実現をめざすと、理念の中で謳っています。この壮大な理念に向かって、今年もまた少しだけ進んでいきたいと思っています。

(就労センターあぶ 伊藤千代子)



“教えないで引き出す” 織り手が自分の思い
いで好きに織っていく、それがさわりです。

とは言え、手あたり次第糸を入れていただけではなく、自分でイメージし、あれこれ考え考え織っていく。そうする事で個性が引き出され、その人らしい織りが出来ていくと思えます。完成した布は、ひとは会(家族の方)に、ペンケースやバック等、商品化してもらっています。手前味噌ですが、出来上がった商品はいつ見ても「いいね〜、ほんとにいいね〜」とろとろ見とれてしまいます。

安芸高田市内では、やすらぎ、ひとは館、神楽門前、八千代産直、広島市のふれあいプラザ(ジャレオ)にも置かせてもらっています。是非見てください。(あぶ さわり班 兼近 洋子)

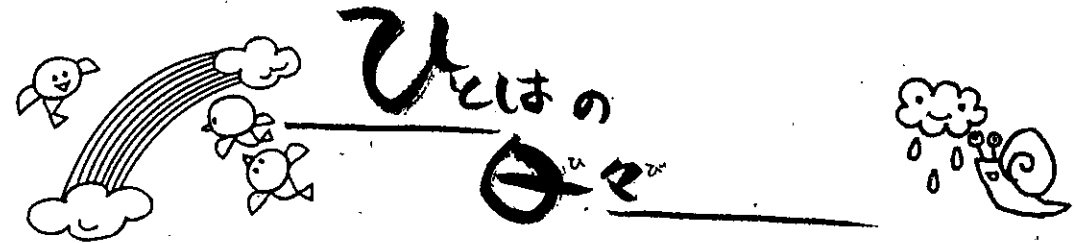
- 16(日) しゅうぶまつり
 - 22(土) したる-かじかまつり
 - 29(土)~30(日) 安芸高田交流キャンプ
 - 7/6(土) 劇団くすのき公演
- くささき亭にて
 ● 22(土) パーパークラフト教室 14:00~
 ● 26(日) トールペイント教室 14:00~
 ● 三上さん川崎さん親子展 (6月中)
 ● 生協の移動販売 毎週木曜 14:30~



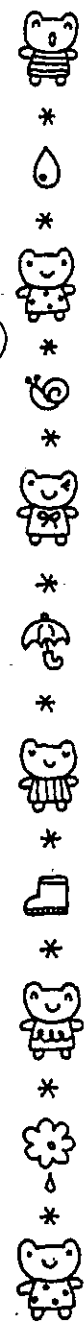
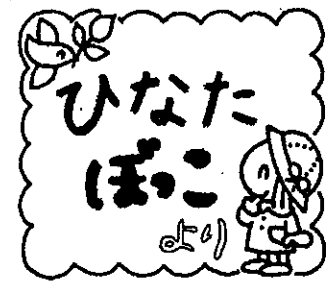
の予定



Dさんとは同じ所属になって1年経ちます。もの静かな彼は会話もうまく成立せず、心が通っているのか自信を持ってないでいました。が、ある日気づきました。昼食後の歯みがきタイム、歯みがきセットを出し忘れていた私をジーンと見て「歯みがき出して」と目力で語り、またある日の掃除時間、「今日の僕の担当は？」とジーンと熱い視線を送ってくれていること。あ、言葉だけじゃなかったね。これからも熱い視線を送ってくださいね。(赤王んま 麓下 美穂)



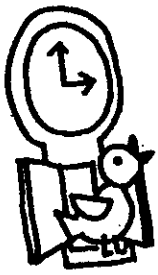
ホームのみんなと一緒に広いお風呂に入るのが好きなSさん。1年のほとんどをひとぼこで過ごされています。そんなSさんが先日、約1年ぶりに帰宅されたら、ほんの1泊でしたが毎日ホームで顔を合わせているSさんが「いたよ、ということをとて淋しく感じ、翌日ホームに帰所されるとすぐにSさんの居室をたずねました。Sさんほど、ホームの仲間達と過ごすのが好き、という人も他にはいないのでは...と思うのは私だけでしょうか? いつまでも身体には気をつけてください。(共同ホーム 立野 兵治)



ようこそ!! ひとぼこへ☆ この春、小学校に入学した男の子と女の子の2名が4月からひとぼこに仲間入りしました。4月のはじめは、ぎこちない感じで過ごしていた2人ですが、今では「たにいま〜」と元気な声で帰ってきて宿題をしたり、遊んだり、活動を楽しんでます。そんな中、小さなカブトムシの幼虫をひとぼこに頂きました。1年生の2人がお水をジュジュとあげたり、図書館で本を借りてきて飼育方法を調べたりしながらお世話をがんばっています。大きく成長していく2人の姿が微笑ましく深みのある毎日です。(ひとぼこ 高松 悦子)

○ 新人紹介コーナー ○
4月から共同ホームで働くことになりました。田端直哉です。趣味はドライブです。暇な日があれば目的地もなく一人でいろいろな場所に行っています。今まで一番思い出になっている所は香川県で、うどんを食べてすぐ帰ってきたことです。よろしくお願ひします。
4月からお世話になってます。築城 暁子です。まだまだ緊張の毎日ですが、最近仲間のみなさんも、気軽に話し掛けてもらい、有難いなあと実感しています。自分の「持ち味」なんて備えていませんが、毎日笑顔で自分が思う「心地よさ」を大切にしていきたいです。

現在、ひとぼこ作業所ではハンカチを集めています。ご家庭で不要になったハンカチがあれば、是非ひとぼこ作業所にハンカチがあれば、是非ひとぼこ作業所 (でんわ: 0826-46-2960 担当: 原田) までご連絡ください。



ささき亭の日々

その日は突然やってきました... ほうれん草の和え物が主役になる日... 朝の準備の段階で、また板の上でカットされ、しめじと絡み合うほうれん草の存在を見ていた。

私は... ほうれん草の存在を忘れ、開店のときを迎えたのだ。

お客様: 「ねえ、これは何? この緑? (ほうれん草じゃないよね?)」

私: 「... ほうれん草ですよ。(朝、見たら当たってるはず?)」

お客様: 「この色は (ほうれん草じゃないわよね?)」

私: 「正確に認めてください。少々お待ちください。」

〜 厨房へ

私: 「和え物の緑の、ほうれん草よね?」

大将: 「そうですね。 (ほうれん草。)

〜 座敷へ

私: 「ほうれん草でしょ?」

お客様: 「どうしたらこの色になるの?」

私: 「...」

お客様: 「何秒ゆでるの?」

私: 「聞いてしましようか?」

お客様: 「うん。教えて教えて。」



〜 厨房へ

私: 「あの色を出すには、何秒ゆでる?」

大将: 「?... サツと。」

私: 「サツて何秒ゆでる?」

大将: 「サツは、サツです。」

私: 「...」



〜 座敷へ

私: 「サツとゆでるそうです。」

お客様: 「サツてどのくらいか?」

私: 「サツて、サツとゆでるよ。」

お客様: 「あ、ええ、聞いてきてくれるのね?」

私: 「わかりました。」

〜 厨房へ

私: 「サツてどのくらいか?」

大将: 「あーあ、あ、説明に上がりましょ。」

私: 「...」

数分後、大将直々にお客様に「あの色」「あの味」のレシピをお伝えすることができました。私は、バタバタ、サツ、バタバタ、サツの繰り返しでしたが、お客様と厨房をつなげる役割として会話に加わることに出来ました。

脇役の持つ味・色・役割を知りました。障害のある人と関わる上で、私はほうれん草の和え物のような存在でいいと思います。

しめじとほうれん草の和えもの

- しめじ
- ほうれん草
- オリーブオイル
- 塩こしょう
- だしじょうゆ

下ごしらえ

しめじは1しづちをとり
(ほうれん草は3cmくらいに切る)



火の通たらすぐに
冷ます。蒸したしめじ
はすよ。

作り方

たっぷりゆがしたお湯にしめじを入れ
ほぼ火が通たら、ほうれん草を入れる。
ほうれん草の色が変わったら、すぐに火
を止めて流水にさらす。完全に冷ます。
繊維をこわすために、ぶつと木を
しぼり、オリーブオイル、塩こしょう、だし
じょうゆで和える。

西日本最終公演

富沢野良子
語り芝居

演劇通ぐすのき

日時・2013年7月6日(土) 昼の部 13:30開場 14:00開演
夜の部 18:00開場 18:30開演

会場・ひとは作業所

入場料・大人1500円(当日1800円)・小学~高校700円(当日1000円)・親子券2000円(前売のみ)
大人+小人1人 幼児無料

主催・くすのき実行委員会

後援・安芸高田市教育委員会, 社会福祉法人 ひとは福社会

お問合せ先・ひとは福社会 TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-7230 ☒ hitoha@rondo.ocn.ne.jp